



いのちの日の集会・人権旬間 ～命・心・人権について考えます～

6月13日(火)に、「いのちの日の集会Ⅰ」をしました。寺尾先生から、約26年前に、当時白旗小1年生2名が、水の事故で亡くなるという悲しい出来事があったことから、白旗小では「自分・友達の命を大切にする」「自分の命は自分で守る行動をする」ことを目的に、年に数回、「いのちの日の集会」を行っているとの話がありました。



その後、私も、新採1年目で担任した子供を交通事故でなくしたこと、家族も友達も先生たちも、とても悲しかったこと、命は二度と戻ってこないことについて話をしました。

また、「みんなで考え合ってほしいこと」として「人権」についても話をしました。「だれにとっても、幸せに生きる権利である『人権』は守られないといけないこと」「自分の身の周りに起きている『おかしいなあ』と思うことに気付き、どうすればいいか考え行動することで、みんなが楽しく安心して過ごせる学校にしよう」と伝えました。

現在、各学級で、教材を活用して人権学習を行っています。学習の様子は通信等でお知らせがあります。お子さんと一緒に、友達を大事にすることについて考えてみてください。

修学旅行 ～平和の尊さについてふれる・学ぶ・考える～

「いのちの日の集会」で命・人権の大切さを伝えた2日後の15日(木)、6年生は、修学旅行先の長崎市で、平和学習を行いました。最初に長崎原爆死没者追悼平和記念館の追悼空間にて、平和集会を行いました。一人一人が「平和の誓い」を伝えた後、最後に全員で、「平和な世界にすることをこの長崎の地で誓います」と伝えた6年生は、みんなで折った鶴を、献花台に納めました。その後、長崎原爆資料館の見学、ガイドさんの案内による浦上天主堂・如己堂等のフィールドワーク、被爆体験者の方の講話を行いました。平和についてふれ・学び、考える学習を、真剣な態度で行うことができました。この学びを、自分のくらしの中の出来事と重ね合わせながら、安心できる楽しい学級・学校づくりへと生かしてほしいと願います。



被爆者体験の講話中の子供たちの真剣な態度や、講話の内容をもとに伝えたお礼の言葉、一人一人が、それぞれにお礼を伝える姿に、講話をされた方がとても感心され、子供たちを、たくさんほめてくださいました。